

## 埼玉県で記録された稀な野鳥について

### On the rare wild birds recorded in Saitama Prefecture

藤波 不二雄\*  
FUJINAMI Fujio\*

2016年9月～2017年2月までの半年間に、埼玉県内で初記録された野鳥および稀な記録となる野鳥が多く観察・撮影された。因みに、2016年8月までに記録のある埼玉県産鳥類目録は353種類、外来種(二次野生鳥)を含めると380種類が報告されている。そして、2016年9月以降に新しくアネハヅル、ミナミクイナ、キマユホオジロ、モリムシクイ、ズアオアトリの5種類が記録された。従って、埼玉県産鳥類目録は358種類となった。また、初記録以外の稀な記録種としてサバンナシトドおよびレンカクの2種類が記録された。これら7種類の記録について紹介する。

#### 1. 埼玉県初記録種

##### 1) アネハヅル *Anthropoides virgo*

アネハヅルはツルの仲間では最も体が小さい。シベリア南部やアジア中西部、ヨーロッパの東南部などに分布し、旧北区の温帯域で繁殖する。冬期は中国やインド、アフリカ北東部などで越冬することが知られている。アネハヅルは越冬地への渡りの時には、5000～8000mもの高度を飛ぶ鳥としても知られており、モンゴルで繁殖する個体群はヒマラヤを超えてインドで越冬することが知られている。しかし、同じようにインドで越冬する個体群でもカザフスタン方面で繁殖するものはヒマラヤ山脈の西側を迂回すると言われている。日本には迷鳥として稀に飛来することがあるが、他の種類のツルと異なり、夏季にも記録されることが多い。

**特徴：**全身は青味を帯びた淡い灰色で頭部は黒く、眼の後方に特徴的な白い房状の飾り羽がある。嘴の先は赤っぽく、喉の羽毛はかなり長くて上胸を覆っている。また、雌雄同色で、脚は黒い。

**今回の記録：**2016年9月2日～3日に、さいたま市の荒川河川敷にある大久保農耕地で観察撮影された(ブログ：鳥とり観察記)。数名のカメラマンによって観察・撮影されたが、9月3日早朝に車のライトを点灯したことにより飛去した。

その後の情報として、茨城県つくばみらい市の小貝川沿いにある北袋の水田地帯で3ヶ月近く滞在した(茨城県新聞、他)が、2017年1月27日以降飛去した。

---

\*会員

## 2) ミナミクイナ *Gallirallus striatus*

ミナミクイナは、ツル目クイナ科に分類され、別名ハシナガクイナとも呼ばれ、8亜種が知られている。南アジア（インド、スリランカ、バングラデシュ）から、東南アジア（フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ミャンマー）、中国南部、香港、台湾等に分布する。多様なタイプの湿地に生息し、マングローブ林の縁などの開けたところによく出てくる。香港のマイポ・マーシュにある湿地帯では普通に見ることができる。

**特徴：**雄は額から頭頂部、後頸が赤茶色で、背中から脇、雨覆は黒地に白色の縞状になっている。頬から喉は白色、頸から胸にかけては青みがかった灰色で、腹から下尾筒にかけては白色と暗い褐色の縞模様になっている。虹彩は赤色、嘴は灰色で基部はピンク色、脚は緑色がかった灰褐色である。雌は雄に比べて体の上面の色がにぶく、腹部は白色。国内での記録は、2007年10月沖縄県金武町、2010年5月宮古諸島の池間島（バーダー誌第30巻12号）および2012年9月27日奄美大島の龍郷町（日本野鳥の会研究誌 *Storix* vol. 29）等、奄美・沖縄諸島での記録がある。

**今回の記録：**2016年9月4日 川越市古谷本郷下組の休耕田で、川越市在住の島田猛靖氏により写真撮影された（バーダー誌第30巻12号）。数日前にも本種と思われるクイナの仲間が同地で観察されたとの情報もあるが詳細不明である。



アネハヅル(九州出水市)



ミナミクイナ 1993年11月(香港)

(※上記の写真はいずれも参考)

## 3) キマユホオジロ *Emberiza chrysophrys*

シベリア中部で繁殖し、冬期は中国中部および南東部、等に渡り越冬する。日本では数少ない旅鳥として主に西日本に渡来する。日本海側の島嶼部（長崎県の対馬・山口県の見島、石川県の舳倉島、等）では春・秋の渡りの時期に毎年記録されるが内陸部での記録は少ない。

**特徴：**雄の夏羽は額、眼先、側頭線、頬などが黒く、頭中央線は白色、眉斑は黄色である。背中と腰は茶褐色であり、体の下面は白く脇に黒褐色の細い縦斑がある。雌は頭中央線が不明瞭で、額、眼先、側頭線、頬は黒褐色である。雄の冬羽は雌に似ているが、頭中央線が白く明瞭であることで区別できる。

**今回の記録：**2016年10月中旬に所沢市と入間市に位置する山口貯水池(狭山湖)の湖岸にある藪地で多くのカメラマンや野鳥関係者によって観察された(2016年10月26日 毎日新聞)。藪の中を出入りするために観察がしにくかったが、眉斑は薄黄色で体下面は白く、喉から下腹部にかけての黒褐色の縦斑がはっきりしていた。風が吹くとカシラダカのように頭部の羽毛を逆立てることもあった。

#### 4) モリムシクイ *Phylloscopus sibilatrix*

ヨーロッパから西シベリア南部のオビ川上流域などで繁殖し、冬は地中海東部からアフリカ中部へ渡る。日本には稀な渡り鳥として渡来する。1991年10月に苫小牧市で標識調査中に1羽が捕獲されたのが日本初記録である。その後、舳倉島等で数例の記録がある。



モリムシクイ



キマユホオジロ

**特徴：**メボソムシクイとほぼ同程度の大きさであるが、他のムシクイ類に比べ尾が短めで胴が太めに感じるために大きく見える。成鳥は頭部から背、肩羽、腰にかけて明るい緑褐色。眉斑と喉から前胸部にかけて鮮やかな黄色をしている。

**今回の記録：**2016年11月27日頃より12月9日まで幸手市の権現堂堤で観察撮影された。越冬するかと思われたが、12月9日に吹いた木枯らしの影響によるものか不明であるが、翌日以降は観察されていない。東京新聞2016年11月4日、毎日新聞/産経ニュース2016年11月5日、朝日新聞2016年11月6日等でも報道され大勢のカメラマンや野鳥観察者が訪れた。島嶼などで観察された過去の記録は一過性の滞在記録であったが、今回のように2週間近くに亘って滞在観察されたことはきわめて珍しい記録と思われる。

#### 5) ズアオアトリ *Fringilla coelebs*

スズメ目アトリ科に分類され、ヨーロッパ全域からロシア西部、アフリカ西北部などで繁殖し、北方で繁殖した個体は冬季にアフリカ北部、中央アジア、ロシア西南部などに渡って越冬する。ニュージーランドには周年生息するが、これは人為的に持ち込まれた個体が野生化したものとされている。日本での記録は迷鳥として1990年に北海道の利尻島で1羽の記録があるのみ。

**特徴：**アトリとほぼ同じ大きさであり、雄成鳥夏羽の額は黒く、頭上から後頸、側頸にかけて青灰色。顔から喉、腹にかけては茶色であるが、下部にいくにつれて淡くなり下腹から下尾筒は白い。腰は緑褐色。雌は全体に灰緑色である。翼の大雨覆と小雨覆は白く2本の翼帯となる。

**今回の記録：**2017年2月12日午前6時30分に、富士見市のびん沼自然公園においてふじみ野市の香川正輝氏がアトリやカワラヒワの群れに混じって行動しているところを撮影し、その後に富士見市の須藤敦夫氏によって同一個体が確認された。12日以降もアトリやカワラヒワの群れはその後にも観察されていたが、ズアオアトリは観察されていなかった。2月17日に筆者が同地へ出かけ、午前8時30分頃にびん沼公園に沿って流れるびん沼川の河川敷にズアオアトリが単独でいたところを観察したが、近くにいたツグミに追われて飛び立った。その折に、両翼の2本の白斑が顕著であった。2月18日の早朝にも第一発見者の香川正輝氏が単独でいるところを観察しているが、その後の情報は不明である。

今回観察された個体は、頭上は灰色味のある薄い褐色であり、後頸部から頬にかけて灰白色で顔のあたりは灰色味のある褐色。大雨覆に白色斑があり、喉から胸腹部にかけては茶褐色をしており、下腹部は淡い色をしているところから、換羽中の雄と思われた。



アトリ(左) ズアオアトリ(右) 香川正輝氏提供

## 2. 埼玉県で希な記録種

### 1) サバンナシトド *Passerculus sandwichensis*

アラスカからアメリカ北部、中部とメキシコ北西部、中部からグアテマラ南西部等で繁殖する。北アメリカ中部以北で繁殖したものは冬期はアメリカ西部からメキシコ、中央アメリカ、西インド諸島などに渡り越冬することが知られている。日本では稀な冬鳥、または旅鳥として、全国各地で観察記録がある。

**特徴：**以前はクサチヒメドリの名がついていた。雌雄同色で頭部から背中、腰、上尾筒までの体の上面は黒褐色の縦斑が密にある。頬は淡い褐色で、周囲は黒褐色。眉斑と眼の周囲は黄白色の個体と白色の個体がある。眉斑以外の羽色も亜種毎の変異が大きい。サバンナシトドは識別が難しい種類であることから見逃されている可能性のある種類の一つである。近年、性能のよい撮影機材により識別が可能になってきたことから今後さらに記録が増える可能性のある種類である。

**今回の記録：**2015年12月10日蓮田市笹山で菊川和夫氏により観察撮影された後、野焼きが行われたため一時消失したが、その後に再度発見され2月中旬以降まで大勢の人たちによって観察・撮影された。今回の記録は埼玉県内3例目の記録となる。2015年12月10日(菊川和夫)蓮田市笹山 埼玉県生態系保護協会・会報 ナチュラルアイ通巻449号(2016年)、2016年2月10日(鈴木功):埼玉県生態系保護協会・会報 ナチュラルアイ通巻451号(2016年)等で報告されている。

**過去の記録：**1991年11月13日に、さいたま市(旧浦和市)の秋ヶ瀬公園でバンディング調査中の上田恵介・内田博・岡崎立の3氏により捕獲された1羽が、山階鳥類研究所の茂田良光氏によってサバンナシトドの雌と同定されたのが埼玉県初記録となった(日本野鳥の会 埼玉県支部報しらこぼと No. 112)。次いで、1998年3月に小峰昇氏によって蓮田市閩戸の農耕地で初認された(日本野鳥の会 埼玉県支部報しらこぼと No. 170)。その後、大勢の人たちによって観察・撮影されたのが2例目の記録となった。その他の記録としては、正式記録ではないが2013年にさいたま市の見沼田んぼで写真撮影された記録がブログ上に掲載されていたが不明種となっており、このブログは現在見当たらないため詳細な記録が不明であるがサバンナシトドと思われた。

## 2) レンカク *Hydrophasianus chirurgus*

中国やインドで繁殖し東南アジアなどで越冬するチドリ目の渡り鳥、水草が繁茂した湖沼や水田、湿地などに生息する。日本では夏から秋にかけての記録が多いが、越冬する例もある。40年ほど前に訪れたルソン島(フィリピン)のカンダバ地域の水田地帯では多くの個体が越冬していた。

**特徴：**雌雄同色で成鳥の夏羽では尾が長くなり、頭や翼が白く、体は黒褐色、首の後ろは黄色で、足の指と爪が非常に長く、ハスなどの浮葉植物の上を歩き回る。冬羽は全体に褐色になり、黒い下眼線は側頭部から胸にかけて伸びて黒い線となり、胸で黒帯となる。

**今回の記録：**2016年8月18日に川崎市伊佐沼で5例目となる夏羽のレンカクが記録され

た。9日間滞在し、多くのカメラマンや野鳥観察者で賑わった。



飛ぶレンカク



サバンナシトド

#### 過去の記録：

- 1) 2003年7月20日～21日 夏羽1羽 さいたま市見沼区のクワイ畑(小峰昇)しらこぼと No. 233(2003年9月号)
- 2) 2008年10月28日 冬羽1羽 川越市伊佐沼(笠原敬一) 朝日新聞埼玉版 2008年10月29日および読売新聞 10月29日
- 3) 2010年7月3日 夏羽1羽 さいたま市みどり区大門 日本野鳥の会埼玉・会報しらこぼと No. 317(2010年9月号)
- 4) 2014年6月14日～18日 夏羽1羽 川越市伊佐沼 ([ichibannor.exblog.jp/20819830](http://ichibannor.exblog.jp/20819830)、他)

#### 渡良瀬遊水池で記録されたムジセッカとチフチャフ

渡良瀬遊水池は栃木県の南端に位置し、栃木、群馬、埼玉、茨城の4県にまたがる面積33km<sup>2</sup>、総貯水容量約2億m<sup>3</sup>の我が国最大の遊水池で3つの遊水池に分かれており、通称、谷中湖とも呼ばれている。谷中湖の中之島と呼ばれる場所で2015年から2017年にかけてムジセッカとチフチャフという2種類の珍しいウグイスの仲間が観察撮影された。

##### 1) ムジセッカ *Phylloscopus fuscatus*

数少ない旅鳥または冬鳥として各地に渡来する。日本海側の島嶼での記録が多い。しかし、近年になって太平洋側での記録も増加傾向にある。低木や林縁の藪を好み、越冬期には水辺近くのアシ原などに生息し、茂みの中を素早く移動する。

特徴：雌雄同色でウグイスによく似ている。成鳥は頭部から背中、尾にかけて一様に灰褐色をしている。眉斑は眼先で細く、明瞭で汚白色をしている。眼の後方では淡いバフ色を帯びる。稀に眉斑全体が白っぽい個体もいる。

**今回の記録**：2016年1月16日に騎西町の樋口信之氏によって初認された後、多くのカメラマンによって撮影された。藪の下草の中を動き回り時々表に出てきたが、タッタッタというような声で連続して鳴き、ウグイスのチャチャッチャという地鳴きとは明らかに異なっていた。

**近県での最近の記録**：

2009年4月6日 神奈川県多摩川 (yuigetv.exblog.jp 他)

2012年1月～4月 東京都上野公園の動物園内の池の植え込み(kojimawataru.jimdo.com 他)

2015年2月2日(藤波不二雄) 川口市のオートレース場裏を流れる旧芝川河川敷の草地 埼玉県生態系保護協会・会報 ナチュラルアイ通巻439号

2016年1月10日～2月16日 東京都葛西臨海公園鳥類園(choruien2.exblog.jp/m 他)

2) チフチャフ *Phylloscopus collybita*

ヨーロッパ、中央アジア、ロシアで繁殖し、冬はアフリカ大陸北部、西アジア、インド北部へ南下し越冬する。数少ない旅鳥または冬鳥として主に日本海側の島嶼に渡来する。過去の記録はほとんどが秋の記録が多く、10月下旬から11月初旬にかけて記録されている。しかしながら、近年は太平洋側の地域での越冬記録が報告されるようになった。稀な記録ではあるが全国的に観察記録があり、関東地方での記録は少ない。

**特徴**：前述のムジセッカに似るが、ムジセッカの体色は褐色で下面はバフ色味が強く、足は黒くない。一見ウグイスにも似ているが、ウグイスは眼が大きく上面はオリーブ褐色で眉斑や下眼線が不明瞭で尾が長めであることなどで識別可能である。

体形は丸みを帯び翼は短く、初列風切はあまり突出しない。上面は緑がかかった灰褐色で下面は淡褐色。翼は暗褐色で、羽縁は淡褐色。眼上部にある眉斑は淡褐色で不明瞭。嘴から眼を通り側頭部へ続く灰褐色の過眼線がある。嘴は細く黒く、足も黒色。種名は鳴き声「チフチャフ」に由来する。

**今回の記録**：2016年12月25日頃より、渡良瀬遊水地の谷中湖にある中の島の道路両側にある灌木地帯で観察された。前述のムジセッカが灌木の藪の中を移動していたのとは対照的に、冬枯れの木の枝上を移動していた。詳細は不明であるが2017年1月7日頃まで観察された。

**近県での最近の記録**：2006年1月から4月に千葉県木更津市

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/チフチャフ>) 2007年1月から3月に東京都日野市

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/チフチャフ>) 2011年12月24日～25日および2012年2月21日～22日(田中史雄)埼玉県吉川市内、日本野鳥の会埼玉・会報しらこぼと No. 348号(2013年)等の記録がある。



チフチャフ



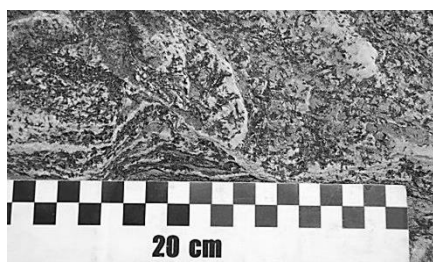
ムジセッカ

## コラム 「県の石」が選定されました！

日本地質学会は、2018年の創立125周年を記念して「県の石」を選定することになり、2014年8月から行ってきた一般募集をもとに2016年5月10日の「地質の日」、全国47都道府県で産出する特徴的な石（岩石・鉱物・化石）を選定しました。このようなプロジェクトは諸外国でも例がないそうです。全国47都道府県の選定結果は下記のサイトでご覧いただくとして、ここでは埼玉県で選定された「県の石」（岩石：片岩、鉱物：スチルプノメレン、化石：パレオパラドキシア）を紹介します。上田知事の3月8日・9日のブログでも紹介されました。ただし、「県の石」はあくまで日本地質学会が選定したもので、シラコバト（鳥）・ケヤキ（木）・サクラソウ（花）・ミドリシジミ（蝶）・ムサントミヨ（魚）のように県条例で指定されたものではありません。



片岩（変成岩の一種）



スチルプノメレン（褐色の鉱物）



パレオパラドキシア（哺乳類）

なお、今回選定された県の石を市民の方々に広く親しんでいただくために、同学会では『県の石図鑑-全国都道府県の岩石・鉱物・化石-』を2018年4月に出版する予定です。詳しい関連情報については、以下のサイトでご覧いただけます。

- 「県の石」日本語版リスト： （本間 岳史：会員）  
<http://www.geosociety.jp/name/content0144.html>
- 47都道府県の「県の石」の詳細（解説・写真など）：  
<http://www.geosociety.jp/name/content0150.html>